

RTE-V850E2/MN4-EB-x

ユーザーズ・マニュアル (Rev.1.1)

Midas lab

改訂履歴

実施日	Revision	章	内容
2010.09.01	1.0		初版
2011.06.14	1.1	Appendix A	Appendix A を追加

目次

1.	はじめに.....	6
1.1.	マニュアル表記について.....	6
1.2.	製品型番について.....	6
2.	機能概要.....	7
3.	基本的な仕様.....	8
4.	ボードの説明.....	10
4.1.	リセットスイッチ(SW10).....	11
4.2.	電源コネクタ(CN23,CN24,CN25).....	11
4.3.	スイッチ 1 (SW1).....	12
4.4.	スイッチ 2 (SW2).....	13
4.5.	スイッチ 3 (SW3).....	13
4.6.	スイッチ 4 (SW4).....	14
4.7.	スイッチ 5 (SW5).....	14
4.8.	スイッチ 6,7 (SW6,SW7).....	15
4.9.	スイッチ 8,9 (SW8,SW9).....	15
4.10.	クロック.....	16
4.11.	デバッグ用コネクタ(CN1).....	16
4.12.	MINICUBE 用コネクタ(CN2).....	17
4.13.	アナログ信号入力コネクタ(CN3).....	17
4.14.	フラッシュプログラミングツール用コネクタ(CN4).....	18
4.15.	プライマリバス拡張用コネクタ(CN5,CN6).....	18
4.16.	テストピン用コネクタ(CN7).....	20
4.17.	PLD プログラム用コネクタ(CN8).....	20
4.18.	LCD パネルモジュール IF コネクタ(CN9).....	21
4.19.	LCD パネルバックライト用コネクタ(CN10).....	21
4.20.	ステレオジャックコネクタ(CN11,CN12,CN13).....	22
4.21.	LAN コネクタ(CN14).....	22
4.22.	PHY ドーターカードコネクタ(CN15).....	23
4.23.	CAN コネクタ(CN16,CN17).....	23
4.24.	UART コネクタ(CN18,CN19).....	24
4.25.	USB-HOST コネクタ(CN20).....	24
4.26.	USB-FUNCTION コネクタ(CN21).....	25
4.27.	SD カード用コネクタ(CN22).....	25

4.28.	AVDD 切り替えジャンパ(JP1).....	26
4.29.	ジャンパ(JP2).....	26
4.30.	プライマリ SRAM バス幅切り替えジャンパ(JP3,JP4).....	26
4.31.	P12-8 機能選択ジャンパ(JP6).....	26
4.32.	P13-0 機能選択ジャンパ(JP7).....	26
4.33.	P13-5 機能選択ジャンパ(JP8).....	26
4.34.	SDRAM バス幅切り替えジャンパ(JP9).....	26
4.35.	セカンダリ SRAM バス幅切り替えジャンパ(JP10,JP11).....	27
4.36.	PHONE/LINE 出力切り替えジャンパ(JP12,JP13).....	27
4.37.	LAN8700iC バス切り離し選択ジャンパ(JP14).....	27
4.38.	グランド接続切り替えジャンパ(JP15,JP16,JP17,JP18).....	27
4.39.	DSR-DTR ループバック切り替えジャンパ(JP19,JP20).....	27
4.40.	フラッシュプログラマ DDO/DDI 接続方法選択ジャンパ(JP21).....	27
4.41.	リセット信号選択ジャンパ(JP22).....	27
4.42.	ジャンパ(JP23).....	28
4.43.	TDO プルアップ選択ジャンパ(JP24).....	28
5.	ハードウェア・リファレンス.....	29
5.1.	メモリ・I/O のマップ.....	29
6.	メモリ詳細.....	31
6.1.	SRAM.....	31
6.2.	SDRAM.....	31
7.	IOマップ.....	33
7.1.	IO マップ一覧.....	33
7.2.	PLD (0xF900_0000-0xF900_001F).....	33
7.2.1.	REG0 PLAY_D (0xF900_0000).....	33
7.2.2.	REG1 PLAY_C (0xF900_0004).....	34
7.2.3.	REG2 REC_D (0xF900_0008).....	34
7.2.4.	REG3 REC_C (0xF900_000C).....	35
7.2.5.	REG4 (0xF900_0010).....	35
7.2.6.	REG5 RSV (0xF900_0014).....	35
7.2.7.	REG6 MISC (0xF900_0018).....	36
7.2.8.	REG7 (0xF900_001C).....	36
7.3.	SW4 読み出しポート (0xF900_0018).....	37
7.4.	LED 表示出力ポート (0xF900_001C).....	37

7.5.	LAN-PHY.....	37
7.6.	USB2.0-HOST.....	38
7.7.	USB2.0-FUNCTION.....	38
7.8.	SD インターフェース.....	39
7.9.	UART.....	39
7.10.	CAN.....	40
7.11.	LCDC.....	40
7.12.	EEPROM.....	43
7.13.	CODEC.....	43
8.	CPU端子接続.....	47
8.1.	端子接続一覧.....	47
	APPENDIX. A.....	50
	- MEMO -.....	51

1. はじめに

RTE-V850E2/MN4-EB は、Renesas エレクトロニクス社製プロセッサ V850E2/MN4 のリファレンスプラットフォームです。本ボードは、SRAM、SDRAM、Ethernet、USB2.0-Host/Function、SD カード、LCDC、CAN、オーディオ CODEC、UART 等のインターフェース機能を搭載しています。

プロセッサの性能評価、デモンストレーション、アプリケーション・プログラムの試作開発など、幅広くご利用頂けます。

1.1. マニュアル表記について

本書では、数字の表記については下表の表記を用います。16 進数や 2 進数の表記では、桁数が多くて読みにくい場合は、4 桁ごとに“-”(ハイフン)を入れてあります。

進数	表記規則	例
10 進数	数字のみを示します	“10”は 10 進数の“10”を示します
16 進数	数字の末尾に”H”を記します	“10H”は 10 進数の“16”を示します
2 進数	数字の末尾に”B”を記します	“10B”は 10 進数の“2”を示します

数字表記規則

1.2. 製品型番について

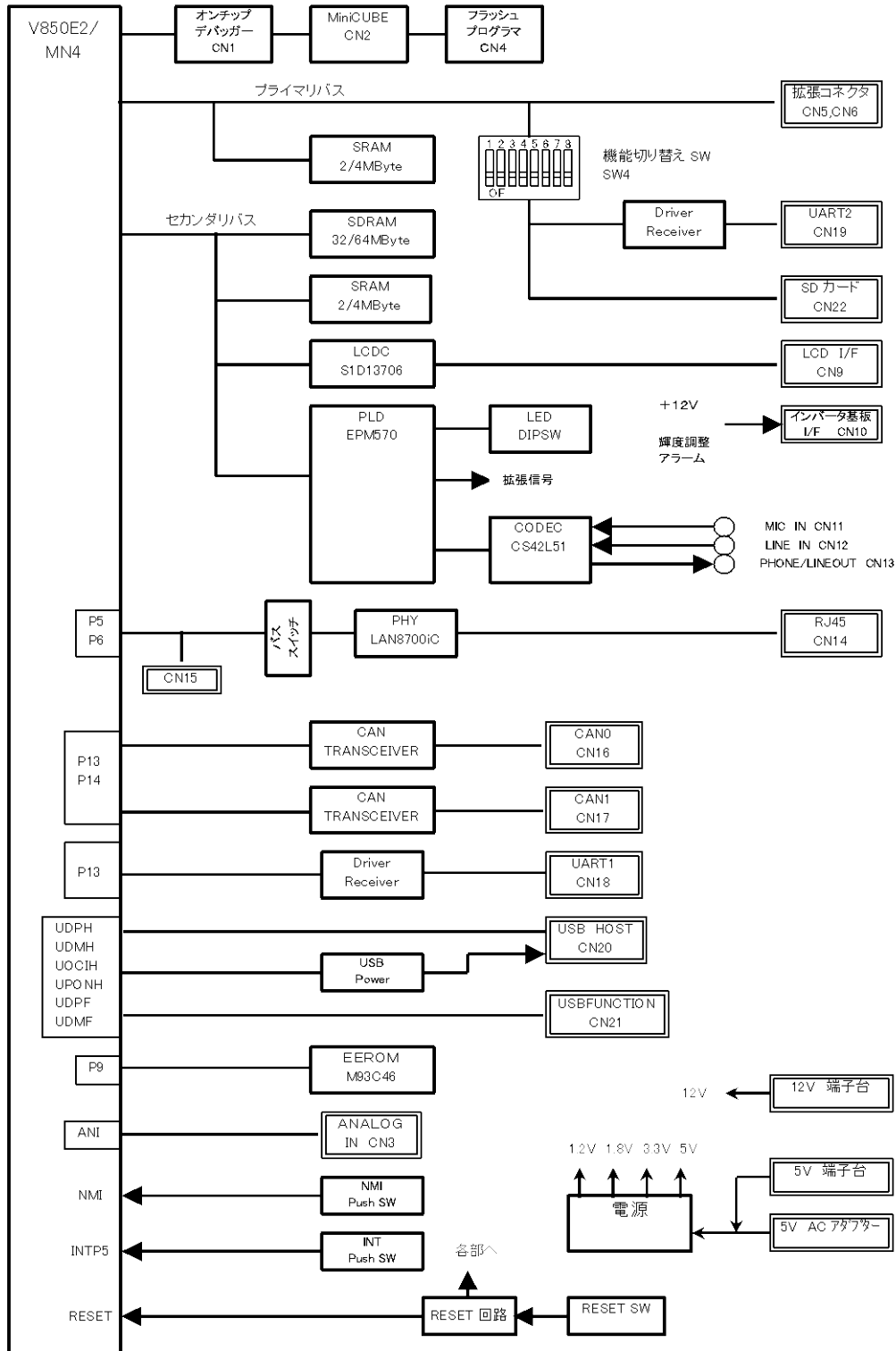
以下の2種の製品が用意されています。

RTE-V850E2/MN4-EB-S : シングルコアの V850E2/MN4 が実装されたボードです。

RTE-V850E2/MN4-EB-D : シマルチコアの V850E2/MN4 が実装されたボードです。

2. 機能概要

RTE-V850E2/MN4-EB の機能ブロックの概要を下図に示します。



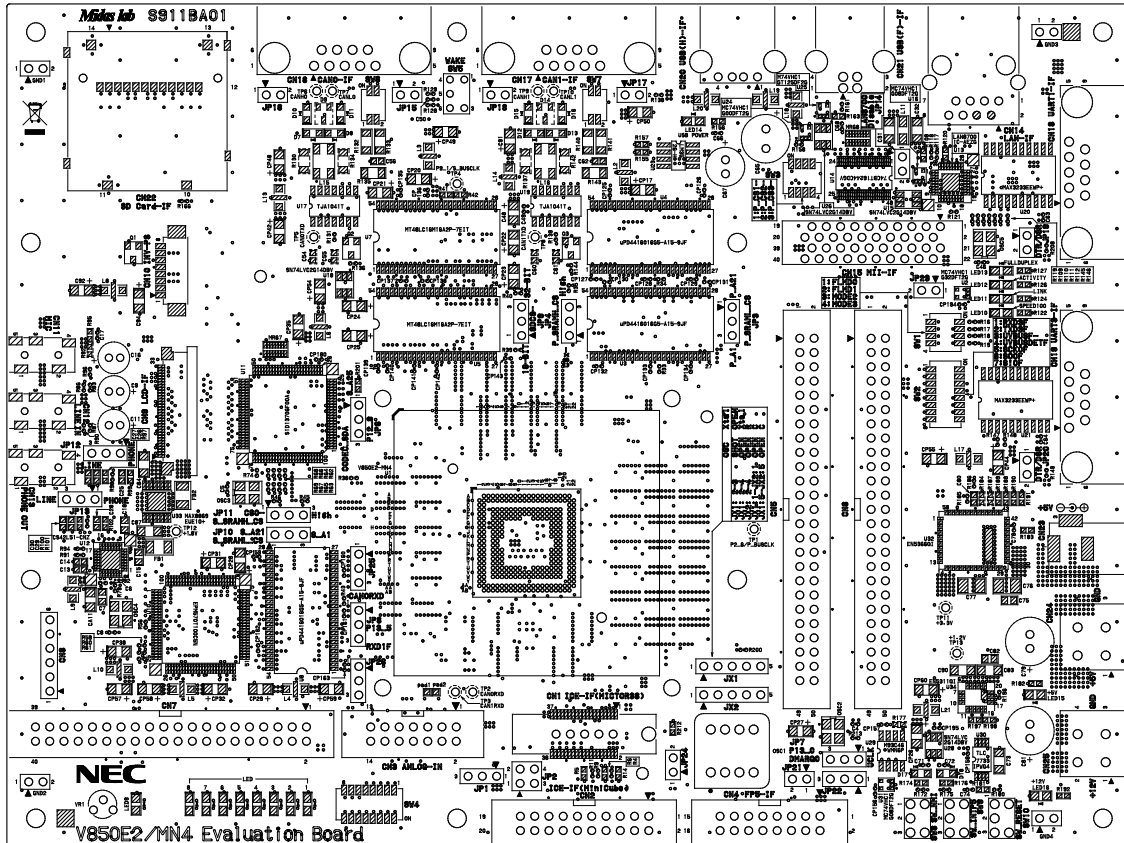
3. 基本的な仕様

項目		概要	主要部品	
CPU		マイコン	V850E2/MN4	1
プライマリ バス メモリ	SRAM	16ビットバス時 2MByte 32ビットバス時 4MByte ジャンパ切り替え	SRAM: NEC uPD4416016G5	2
セカンダリ バス メモリ	SRAM	16ビットバス時 2MByte 32ビットバス時 4MByte ジャンパ切り替え	SRAM: NEC uPD4416016G5	2
	SDRAM	16ビットバス時 32MByte 32ビットバス時 64MByte ジャンパ切り替え	SDRAM: MICRON MT48LC16M16A2P	3
セカンダリ バス 周辺	PLD	汎用 DIPSW、汎用 LED、DMA 要求 オーディオ CODEC 制御、RS232C 補助信号 CAN 補助信号、SD カード制御信号	PLD: アルテラ EPM570T100C5N	1
	LCDC	LCDコントローラをバスで接続 LCD パネル用コネクタを装備	LCDC: エプソン S1D13706F00A コネクタ: エルコ 08-6260-033-340-829+	1 1
		バックライト用インバータ制御、輝度調整 インバータエラー表示	コネクタ: MOLEX 53261-0871	1
CPU ポート	USB 2.0 Host	V850E2/MN4 USB 2.0 Host I/F (A 端子コネクタ)	コネクタ: AMP 292303-4	1
	USB 2.0 Function	V850E2/MN4 USB 2.0 Function I/F (B 端子コネクタ)	コネクタ: AMP 292304-1	1
	UART1,2	V850E2/MN4 UART1F、UART3F I/F に接続	コネクタ: オムロン XM2C-0912-132	2
			ドライバレシーバ: マキシム MAX3233	2
	CAN1,2	V850E2/MN4 CAN0、CAN1 I/F に接続	コネクタ: オムロン XM3B-0922-132	1
			トランシーバ: NXP TJA1041T	1
	CSI	1Kビット EEPROM を CSI4 に接続	EEROM: ST マイクロ M93C46	1
	SD カード	SD I/F を CSI0 に接続	コネクタ: アルプス SCDA3A0202	1
Ether	V850E2/MN4 Ether 10/100Mbps を P5、P6 ポートへ 接続 PHY 交換用ボード搭載コネクタを装備	PHY: SMSC LAN8700iC	1	
		コネクタ: TDK TLA-6T717W	1	
		コネクタ: AMP 6-5174215-2	1	
ADC	V850E2/MN4 ANIに接続	コネクタ: オムロン XG4C-1431	1	
PLD ポート	CODEC	オーディオ用CODECを装備 PLD ポートからシリアル制御	CODEC: CIRRUS LOGIC CS42L51	1
		コネクタ: ホシデン HSJ1636-01054	3	
プライマリ バス 周辺	プライマリバス拡張	プライマリバス拡張コネクタ	コネクタ: オムロン XG4C-5031	2

項目		概要	主要部品	
供給電源	ACアダプタ電源 又は 端子台	+5V :xxA	電源ジャック HEC0470-01-630 端子台:サトーパーツ ML-950-2	1 1
	端子台	+12V :xxA	端子台:サトーパーツ ML-950-2	1
生成電源	+3.3V	最大電流値: 6A	EN5366QI (Enpirion)	1
	+1.8V	最大電流値: 1A	MAX8869EUE10 (MAXIM)	1
	+1.2V	最大電流値: 1A	EN5311QI (Enpirion)	1
MISC	コネクタ	オンチップデバッグ用コネクタ	コネクタ:AMP 2-5767004-2	1
		MiniCUBE 用コネクタ	コネクタ:オムロン XG4C-2031	1
		フラッシュプログラム用コネクタ	コネクタ:オムロン XG4C-1631	1
		PLDプログラム用コネクタ	コネクタ:オムロン XG8V-0631	1
		V850E2/MN4 CPUクロック選択	MF-30-1-5	2
		テストピン	コネクタ:オムロン XG4C-4031	1
	スイッチ	モード設定 DIPSW	SW:コパル CHS-04TA1	1
		共有端子信号切断 DIPSW	SW:コパル CHS-08TA1	1
		プライマリバス SRAM ベースアドレス選択用 DIPSW	SW:コパル CHS-04TA1	1
		汎用 DIPSW (PLD ポート)	SW:コパル CHS-08TA1	1
		CAN 伝送ライン終端 DIPSW	SW:コパル CHS-02TA1	2
		CAN ウェイク用スイッチ	SW:日開 G-19AP	1
		NMI 用 プッシュ SW	SW:フジソク FP1F-2M-Z	1
		INTP5 用 プッシュ SW	SW:フジソク FP1F-2M-Z	1
		リセット用 トグル SW	SW:フジソク FT1F-2M-Z	1
	LED	汎用 LED (PLD ポート)	LED:ローム SML-210PTT86	8
		LANステータス LED (SPEED100、LINK、ACTIVITY、 FULLDUPLEX)	LED:ローム SML-210PTT86	4
		USB電源供給インジケータ	LED:ローム SML-210PTT86	1
		バックライト用インバータ基板 エラー表示	LED:スタンレー FR1112H	1
		+5V 電源入力インジケータ	LED:スタンレー UB1112H	1
		+12V 電源入力インジケータ	LED:スタンレー UB1112H	1
	VR	バックライト 輝度調整用	VR:コパル RJ-4EW 50KΩ	1

4. ボードの説明

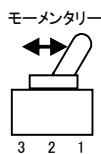
下図は RTE-V850E2/MN4-EB 上の主要な部品の物理的な配置です。本章では、それぞれの部品について説明します。



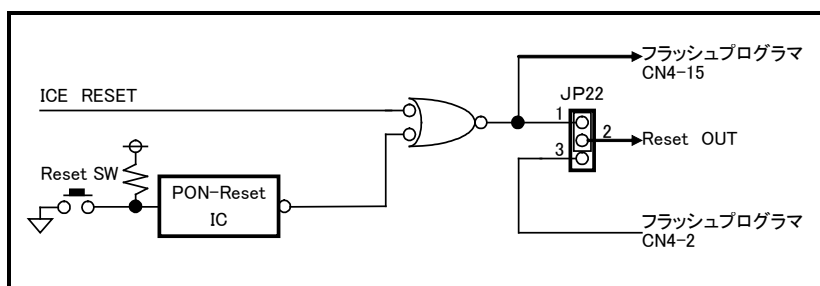
RTE-V850E2/MN4-EB の部品配置図

4.1. リセットスイッチ(SW10)

システムのリセットスイッチです。モーメンタリーとなっており、レバーを反対方向に倒したときリセット動作となります。手を離すと元の位置に戻ります。

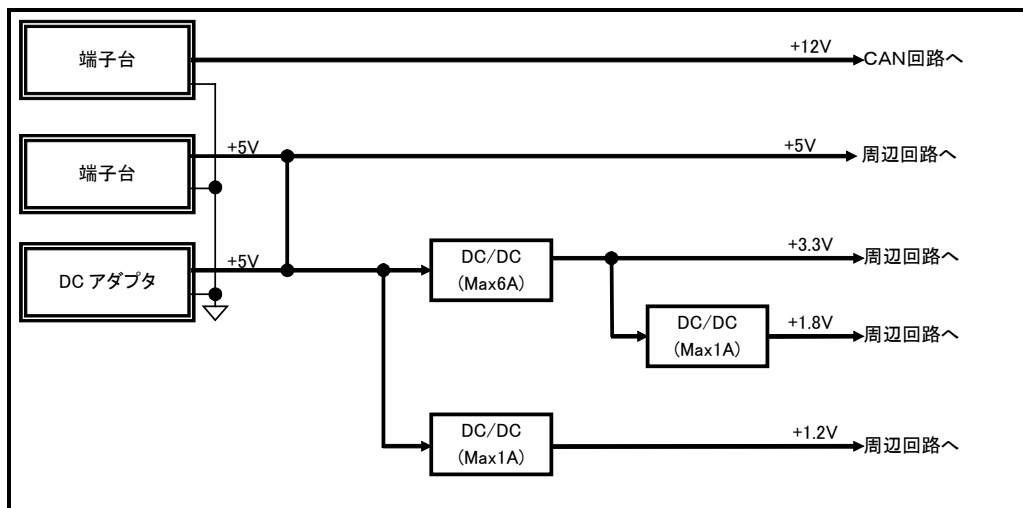


リセットの回路イメージを下図に示します。デフォルトで JP22 は 1-2 間がショートされています。

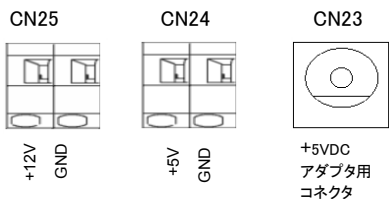


4.2. 電源コネクタ(CN23,CN24,CN25)

DC アダプタもしくは端子台から+5V、及び端子台から+12V を供給します。電源構成を下図に示します。CAN をご使用にならない場合は、5V だけの接続でご使用いただけます。



+5V と+12V の端子台を間違わないようにしてください。



CN24,CN25

メーカー : サトーパーツ

型番 : ML-950-2

CN23

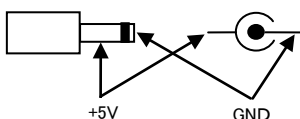
メーカー : ホシデン

型番 : HEC0470-01-630

DC アダプタコネクタ

CN23 に供給する電源は、以下の通りです。

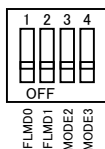
- 電圧 : +5V
- 電流 : 1A 以上
- 適合コネクタ: TypeA(Φ5.5)
- 極性 : 下図



添付の電源をご使用ください。もし、他の電源を使う場合は、極性に十分ご注意ください。

4.3. スイッチ 1 (SW1)

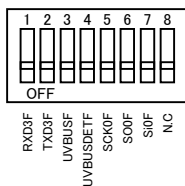
V850E2/MN4 CPUのフラッシュプログラミングモード及び動作モードを決定します。



番号	信号名	出荷時の設定	機能
1	FLMD0	ON	CPU の FLMD0 端子のレベル設定 (ON:Low,OFF:High)
2	FLMD1	ON	CPU の FLMD1 端子のレベル設定 (ON:Low,OFF:High)
3	MODE2	ON	CPU の MODE2 端子のレベル設定 (ON:Low,OFF:High)
4	MODE3	ON	CPU の MODE3 端子のレベル設定 (ON:Low,OFF:High)

4.4. スイッチ 2 (SW2)

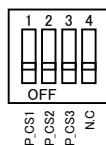
兼用端子に接続されているインターフェース回路を切り離し、競合しないようにするためのスイッチです。個別に設定可能です。プライマリバス拡張用コネクタ(CN5、CN6)を使用する際、基板上の回路信号との衝突を防止する役割も持っています。CPU の端子接続については【 8.1 端子接続一覧】を参照してください。



番号	信号名	出荷時の設定	機能
1	RXD3F	OFF	ON : P4_6 を RXD3F として使用します OFF: P4_6 を EX_P4_6 として使用します
2	TXD3F	OFF	ON : P4_7 を TXD3F として使用します OFF: P4_7 を EX_P4_7 として使用します
3	UVBUSF-	OFF	ON : P4_9 を UVBUSF-として使用します OFF: P4_9 を EX_P4_9 もしくは P_CS2-として使用します
4	UVBUSDETF	OFF	ON : P4_10 を UVBUSDETF として使用します OFF: P4_10 を EX_P4_10 として使用します
5	SCK0F	OFF	ON : P4_11 を SCK0F として使用します OFF: P4_11 を EX_P4_11 として使用します
6	SO0F	OFF	ON : P4_12 を SO0F として使用します OFF: P4_12 を EX_P4_12 として使用します
7	SI0F	OFF	ON : P4_13 を SI0F として使用します OFF: P4_13 を EX_P4_13 として使用します
8		OFF	未使用

4.5. スイッチ 3 (SW3)

SRAM のベースアドレスを選択するためのスイッチです。SRAM のベースアドレスを P_CS1~P_CS3 の中から選択することができます。同時に 2 つ以上 ON としてはいけません。全てを OFF することで SRAM をバスから切り離すこともできます。

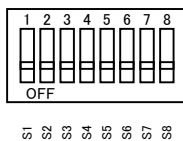


番号	信号名	出荷時の設定	機能
1	P_CS1	ON	ON : 0x0200_0000 – 0x03FF_FFFF 空間を選択 OFF: 切り離し
2	P_CS2	OFF	ON : 0x0400_0000 – 0x07FF_FFFF 空間を選択 OFF: 切り離し
3	P_CS3	OFF	ON : 0x0800_0000 – 0x0BFF_FFFF 空間を選択 OFF: 切り離し
4		OFF	未使用

4.6. スイッチ 4 (SW4)

PLD に接続された汎用DIPスイッチです。プログラムで読み出すことが可能です。

アドレス、ビット配置については 【 7.2.7 REG6 MISC (0xF900_0018) 】を参照してください。

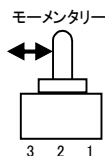


番号	信号名	出荷時の設定	機能
1	S1	OFF	ON : 0 OFF: 1 が読み出せませ
2	S2	OFF	ON : 0 OFF: 1 が読み出せませ
3	S3	OFF	ON : 0 OFF: 1 が読み出せませ
4	S4	OFF	ON : 0 OFF: 1 が読み出せませ
5	S5	OFF	ON : 0 OFF: 1 が読み出せませ
6	S6	OFF	ON : 0 OFF: 1 が読み出せませ
7	S7	OFF	ON : 0 OFF: 1 が読み出せませ
8	S8	OFF	ON : 0 OFF: 1 が読み出せませ

4.7. スイッチ 5 (SW5)

CANのウェイクアップ用のトグルスイッチです。中間位置でオフ(CAN_WAKE-へHレベルを出力)、左又は右にレバーを倒すとオン(CAN_WAKE-へLレベルを出力)になります。ただし 左に倒した場合モ

モーメンタリーとなり手を離すとレバーは中間位置に戻るようにになっています。



4.8. スイッチ 6,7 (SW6,SW7)

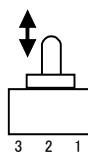
CANラインの 終端抵抗の接続を ON 又はOFFするスイッチです。SW6 が CAN0 用、SW7 が CAN1 用です。CANL、CANH 個別にスイッチが設けられていますが、1と2は同じ設定にしてください。



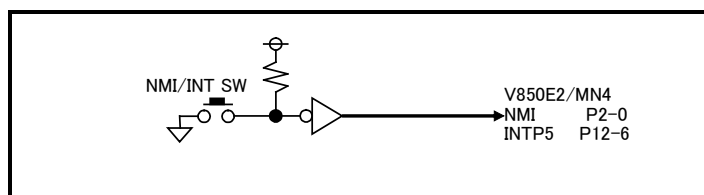
番号	信号名	出荷時の設定	機能
1	CANH	OFF	ON : 62Ω 抵抗で終端 OFF: 切り離し
2	CANL	OFF	ON : 62Ω 抵抗で終端 OFF: 切り離し

4.9. スイッチ 8,9 (SW8,SW9)

NMI(SW8) 又は INTP5(SW9)へHレベルを出力するプッシュスイッチです。通常状態では、L レベルで、押したときだけ H レベルになります。マニュアル操作により CPU へ割り込みを入れたいときに使用します。



NMI/INT の回路イメージを下図に示します。



4.10. クロック

V850E2/MN4 ヘックロックを供給する回路です。OSC1発振器又は クリスタル振動子のいずれかを選択できるようになっていますが、クリスタル振動子でのみご使用ください。オシレータでの動作は保証されていません。

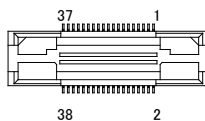
No	素子	周波数	用途																		
OSC1	発振器	---	使用できません。																		
Xtal	振動子	10MHz	Xtal の設定でのみご使用ください。																		
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>設定箇所</th> <th>発振器</th> <th>Xtal</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JX1:2-3</td> <td>ショート</td> <td>オープン</td> </tr> <tr> <td>JX1:2-4</td> <td>オープン</td> <td>Xtal (10MHz)</td> </tr> <tr> <td>JX2:2-4</td> <td>オープン</td> <td>R(未実装)</td> </tr> <tr> <td>JX1:1-JX2:1</td> <td>オープン</td> <td>C(10pF)</td> </tr> <tr> <td>JX1:5-JX2:5</td> <td>オープン</td> <td>C(10pF)</td> </tr> </tbody> </table>	設定箇所	発振器	Xtal	JX1:2-3	ショート	オープン	JX1:2-4	オープン	Xtal (10MHz)	JX2:2-4	オープン	R(未実装)	JX1:1-JX2:1	オープン	C(10pF)	JX1:5-JX2:5	オープン	C(10pF)
			設定箇所	発振器	Xtal																
			JX1:2-3	ショート	オープン																
			JX1:2-4	オープン	Xtal (10MHz)																
			JX2:2-4	オープン	R(未実装)																
JX1:1-JX2:1	オープン	C(10pF)																			
JX1:5-JX2:5	オープン	C(10pF)																			
出荷時の状態(Xtal実装)でご使用ください。																					
OSC2	発振器	48MHz	USB専用 クロック (JP7 1-2ショート時) デフォルトではJP7 1-2がショートされています																		
OSC3	発振器	50MHz	LCDC IC用 クロック																		
OSC4	発振器	12.288MHz	コーデック IC用 クロック																		
OSC5	発振器	25MHz	LAN PHY IC用 クロック																		

4.11. デバッグ用コネクタ(CN1)

オンチップデバッガ(ICE)用のコネクタです。(Appendix.A 参照)

Pin	信号	Pin	信号
1	GND1	2	GND2
3	TCK	4	VCCIO
5	TMS	6	TRST
7	TDI	8	RESET
9	TDO	10	FLMD0
11	MSE00	12	RDYZ
13	MSE01	14	EVTO
15	NC1	16	EVTI
17	MCKO	18	NC2
19	NC3	20	NC4
21	MDO0	22	MDO8
23	MDO1	24	MDO9
25	MDO2	26	MDO10
27	MDO3	28	MDO11
29	MDO4	30	MDO12
31	MDO5	32	MDO13
33	MDO6	34	MDO14
35	MDO7	36	MDO15
37	GND3	38	GND4

CN1



メーカー : タイコエレクトロニクスアンブ

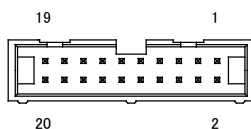
型番 : 2-5767004-2

4.12. MiniCUBE 用コネクタ(CN2)

MiniCUBE(ICE)用のコネクタです。(Appendix.A 参照)

Pin	信号	Pin	信号
1	GND	2	DCK
3	GND	4	DMS
5	GND	6	DDI
7	GND	8	DRST
9	GND	10	N.C
11	GND	12	RESET
13	GND	14	FLMD0
15	GND	16	TRDY
17	GND	18	DDO
19	GND	20	VDD

CN2



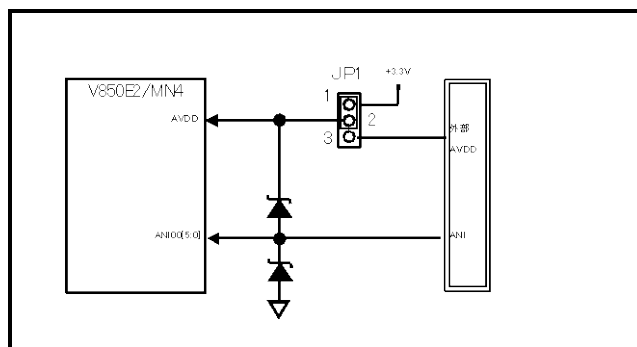
メーカー : OMRON

型番 : XG4C-2031

4.13. アナログ信号入力コネクタ(CN3)

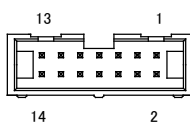
V850E2/MN4 内蔵のサンプル & ホールド付き 6ch AD コンバータのアナログ入力用のコネクタです。

内部電源(3.3V)使用時は分解能 10 ビット、外部から+5Vを供給した場合は分解能を 12 ビットにすることができます。入力はショットキーダイオードで AVDD に(内部の 3.3V、または外部電源)にクランプされており、デフォルトでは内部の 3.3V(JP1 は 1-2 間がショート)です。



Pin	信号	Pin	信号
1	外部 AVDD 入力	2	GND
3	ANI00 入力	4	GND
5	ANI01 入力	6	GND
7	ANI02 入力	8	GND
9	ANI03 入力	10	GND
11	ANI04 入力	12	GND
13	ANI05 入力	14	GND

CN3



メーカー : OMRON

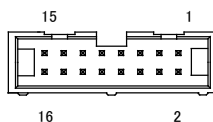
型番 : XG4C-1431

4.14. フラッシュプログラミングツール用コネクタ(CN4)

V850E2/MN4 の内蔵フラッシュメモリプログラミング用のコネクタです。(Appendix.A 参照)

Pin	信号	Pin	信号
1	GND	2	
3	DDO	4	VDD
5	DDI	6	N.C
7	DCK	8	TRDY
9	DRST	10	N.C
11	N.C	12	DMS
13	N.C	14	FLMD0
15	RESET	16	N.C

CN4



メーカー : OMRON

型番 : XG4C-1631

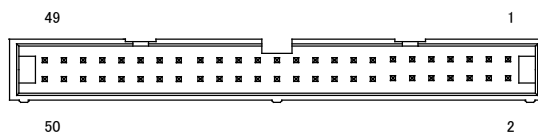
4.15. プライマリバス拡張用コネクタ(CN5,CN6)

V850E2/MN4 のプライマリバス信号を外部で観測するためのコネクタです。

ピン配置は以下の通りです。機能の中で P_A0-P_A23 はアドレスを、P_D0-P_D31 はデータバスを示しています。

ピン番号	信号名	機能	ピン番号	信号名	機能
1	GND		1	GND	
2	EX_P3_0	P_A0	2	EX_P4_0	P_A16
3	EX_P3_1	P_A1	3	EX_P4_1	P_A17
4	EX_P3_2	P_A2	4	EX_P4_2	P_A18
5	EX_P3_3	P_A3	5	EX_P4_3	P_A19
6	GND		6	GND	

ピン番号	信号名	機能	ピン番号	信号名	機能
7	EX_P3_4	P_A4	7	EX_P4_4	P_A20
8	EX_P3_5	P_A5	8	EX_P4_5	P_A21
9	EX_P3_6	P_A6	9	EX_P4_6	P_A22
10	EX_P3_7	P_A7	10	EX_P4_7	P_A23
11	GND		11	GND	
12	EX_P3_8	P_A8	12	EX_P4_8	P_CS1-
13	EX_P3_9	P_A9	13	EX_P4_9	P_CS2-
14	EX_P3_10	P_A10	14	EX_P4_10	P_CS3-
15	EX_P3_11	P_A11	15	EX_P4_11	P_WAIT
16	GND		16	GND	
17	EX_P3_12	P_A12	17	EX_P4_12	P_HLDAK
18	EX_P3_13	P_A13	18	EX_P4_13	P_HLDRQ
19	EX_P3_14	P_A14	19	N.C	
20	EX_P3_15	P_A15	20	N.C	
21	GND		21	GND	
22	EX_P1_0	P_D16	22	EX_P2_1	P_LLBE-
23	EX_P1_1	P_D17	23	EX_P2_2	P_LUBE-
24	EX_P1_2	P_D18	24	EX_P2_3	P_ULBE-
25	EX_P1_3	P_D19	25	EX_P2_4	P_UUBE-
26	GND		26	GND	
27	EX_P1_4	P_D20	27	EX_P2_5	RD-
28	EX_P1_5	P_D21	28	EX_P2_6	P_BUSCLK
29	EX_P1_6	P_D22	29	EX_P2_7	WR-
30	EX_P1_7	P_D23	30	N.C	
31	GND		31	GND	
32	EX_P1_8	P_D24	32	EX_P0_0	P_D0
33	EX_P1_9	P_D25	33	EX_P0_1	P_D1
34	EX_P1_10	P_D26	34	EX_P0_2	P_D2
35	EX_P1_11	P_D27	35	EX_P0_3	P_D3
36	GND		36	GND	
37	EX_P1_12	P_D28	37	EX_P0_4	P_D4
38	EX_P1_13	P_D29	38	EX_P0_5	P_D5
39	EX_P1_14	P_D30	39	EX_P0_6	P_D6
40	EX_P1_15	P_D31	40	EX_P0_7	P_D7
41	GND		41	GND	
42	N.C		42	EX_P0_8	P_D8
43	N.C		43	EX_P0_9	P_D9
44	N.C		44	EX_P0_10	P_D10
45	N.C		45	EX_P0_11	P_D11
46	GND		46	GND	
47	N.C		47	EX_P0_12	P_D12
48	N.C		48	EX_P0_13	P_D13
49	N.C		49	EX_P0_14	P_D14
50	N.C		50	EX_P0_15	P_D15
CN5			CN6		



メーカー : OMRON

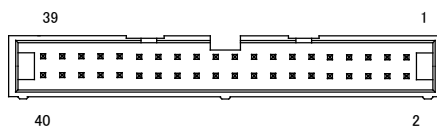
型番 : XG4C-5031

4.16. テストピン用コネクタ(CN7)

TP 信号がこのコネクタに集められています。

Pin	信号	Pin	信号
1	TP7_0	2	TP7_1
3	TP7_2	4	TP7_3
5	GND	6	TP7_4
7	TP7_5	8	TP7_6
9	TP7_7	10	GND
11	TP7_8	12	TP7_9
13	TP7_10	14	TP7_11
15	GND	16	TP7_12
17	TP7_13	18	TP7_14
19	TP7_15	20	GND
21	TP8_0	22	TP8_1
23	TP8_2	24	TP8_3
25	GND	26	TP8_4
27	TP8_5	28	TP8_6
29	TP8_7	30	GND
31	TP8_8	32	TP8_9
33	TP8_10	34	TP8_11
35	GND	36	TP8_12
37	TP8_13	38	TP8_14
39	TP8_15	40	GND

CN7



メーカー : OMRON

型番 : XG4C-4031

4.17. PLD プログラム用コネクタ(CN8)

PLD(EPM570T100C5N)のプログラミング用信号が基板のスルホールとして用意されています。アルテラ社 バイトプラスとは形状が異なるので変換アダプタを使用してJTAGで接続します。

工場出荷時用です。

Pin	信号
1	TCK
2	TMS
3	TDI
4	TDO
5	+3.3V
6	GND

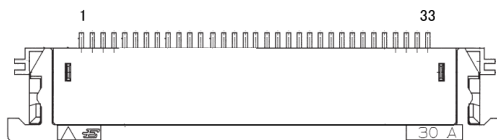
CN8

4.18. LCD パネルモジュール IF コネクタ(CN9)

TFTカラー液晶モジュール(NL3224BC35-20) 5.5 型 QVGA を接続することができます。コネクタには LCD コントローラ(S1D13706)の信号が接続されています。

Pin	信号	Pin	信号
1	GND	2	CLK
3	HSYNC	4	VSYNC
5	GND	6	R0
7	R1	8	R2
9	R3	10	R4
11	R5	12	GND
13	G0	14	G1
15	G2	16	G3
17	G4	18	G5
19	GND	20	B0
21	B1	22	B2
23	B3	24	B4
25	B5	26	GND
27	DE	28	VCC
29	VCC	30	DPSH
31	DPSV	32	Q/V
33	GND		

CN9



メーカー : 京セラエルコ

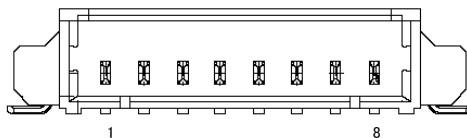
型番 : 08-6260-033-340-829+

4.19. LCD パネルバックライト用コネクタ(CN10)

バックライト用インバータ(55PW131)を接続することができます。

Pin	信号
1	VDDDB0
2	VDDDB1
3	GNDB0
4	GNDB1
5	BRTC
6	BRTI
7	GNDB2
8	AM

CN10



メーカー : モレックス

型番 : 53261-0871

4.20. ステレオジャックコネクタ(CN11,CN12,CN13)

オーディオ コーデックIC用入出力として、下記のステレオジャックを搭載しています。



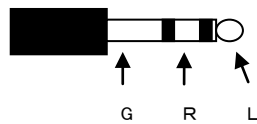
CN11-CN13

メーカー : ホシデン

型番 : HSJ1636-01054

適合プラグ

3.5mm ミニプラグ

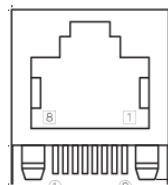


4.21. LAN コネクタ(CN14)

10BASE-T/100BASE-T 用の RJ45 コネクタが用意されています。このコネクタはトランス内蔵となっています。

Pin	信号
1	TD+
2	TD-
3	RD+
4	CT1
5	CT2
6	RD-
7	CT3
8	CT4

CN14



メーカー : TDK

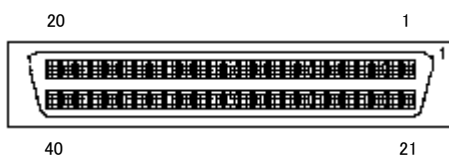
型番 : TLA-6T717W

4.22. PHY ドーターカードコネクタ(CN15)

本ボードに搭載されている LAN8700iC 以外の PHY チップを使用できるようにドーターカードコネクタの実装ホールが用意されていますが、テスト用です。コネクタは未実装であり、動作保証はされていません。

Pin	信号	Pin	信号
1	+5V[3]	21	+5V[2]
2	MDIO	22	COMMON[18]
3	MDC	23	COMMON[17]
4	RXD3	24	COMMON[16]
5	RXD2	25	COMMON[15]
6	RXD1	26	COMMON[14]
7	RXD0	27	COMMON[13]
8	RX_DV	28	COMMON[12]
9	RX_CLK	29	COMMON[11]
10	RX_ER	30	COMMON[10]
11	TX_ER	31	COMMON[9]
12	TX_CLK	32	COMMON[8]
13	TX_EN	33	COMMON[7]
14	TXD0	34	COMMON[6]
15	TXD1	35	COMMON[5]
16	TXD2	36	COMMON[4]
17	TXD3	37	COMMON[3]
18	COL	38	COMMON[2]
19	CRS	39	COMMON[1]
20	+5V[4]	40	+5V[1]

CN15



メーカー : タイコエレクトロニクスアンブ

型番 : 6-5174215-2

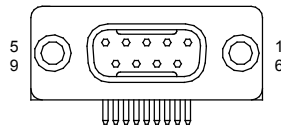
4.23. CAN コネクタ(CN16,CN17)

CPU に搭載している CAN デバイスコントローラのインターフェース用コネクタです。

2 チャンネル用意しています。

Pin	信号
1	
2	CANL
3	GND
4	
5	
6	
7	CANH
8	
9	

CN16/CN17



メーカー : OMRON

型番 : XM3B-0922-132

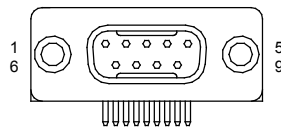
4.24. UART コネクタ(CN18,CN19)

CPU に搭載されている UART デバイスコントローラのインターフェース用のコネクタです。

2 チャンネル用意しています。

Pin	信号
1	DCD
2	RX
3	TX
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	RI

CN18/CN19



メーカー : OMRON

型番 : XM2C-0912-132

4.25. USB-HOST コネクタ(CN20)

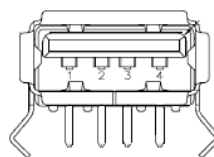
CPU に搭載されている USB ホストコントローラのインターフェースコネクタです。

コネクタは標準 A レセプタクルです。

Pin	信号
1	VBus
2	-Data
3	+Data
4	GND

CN20

1 2 3 4



メーカー : タイコエレクトロニクスアンブ

型番 : 292303-4

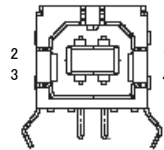
4.26. USB-FUNCTION コネクタ(CN21)

CPU に搭載されている USB ファンクションコントローラのインターフェースコネクタです。

コネクタは標準 B レセプタクルです。

Pin	信号
1	VBus
2	-Data
3	+Data
4	GND

CN21



メーカー : AMP

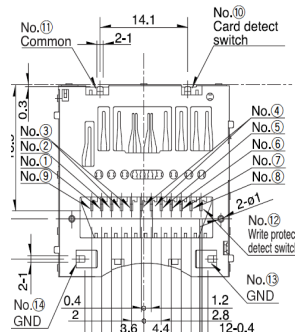
型番 : 292304-1

4.27. SD カード用コネクタ(CN22)

SD カードのインターフェース用のコネクタです。

Pin	信号
1	CD/DAT3(CS-)
2	CMD(Datain)
3	VSS
4	VDD
5	CLK(CLK)
6	VSS
7	DATA0(Dataout)
8	DAT1
9	DAT2
10	CD
11	COM
12	WP
13	GND
14	GND

CN22



メーカー : ALPS

型番 : SCDA3A0202

4.28. AVDD 切り替えジャンパ(JP1)

AVDD 電源を 内部から供給(1-2 間をショート)か 外部から CN3 コネクタを通して供給(2-3 間をショート)するかを選択します。内部を選択すると AVDD として+3.3V が供給されます。外部からは最大+5V まで供給することができます。

デフォルトでは1-2間をショートしています。

4.29. ジャンパ(JP2)

MiniCUBE 用コネクタ(CN2)の 14pin に接続する信号を設定します。1-2 間をショートで FLMD0 信号が、3-4 間ショートで EVTOZ 信号が接続されます。

デフォルトでは 1-2 間をショートして FLMD0 信号が接続されています。

4.30. プライマリ SRAM バス幅切り替えジャンパ(JP3,JP4)

プライマリ SRAM を 32 ビットバスで使用するとき(1-2 間をショート)、16 ビットバスで使用するとき(2-3 間をショート)します。JP3、JP4 共に同じ設定でなければなりません。

デフォルトでは 1-2 間をショートして 32 ビットバスとなっています。

4.31. P12-8 機能選択ジャンパ(JP6)

CPU P12-8 端子の機能選択です。S1_HA25(A25 として SDRAM で使用)として使用するとき(1-2 間をショート)、CODEC の SDA として使用するとき(2-3 間をショート)します。

デフォルトでは 1-2 間をショートして S1_HA25 となっています。

4.32. P13-0 機能選択ジャンパ(JP7)

CPU P13-0 端子の機能選択。USB クロック(48MHz)の入力として使用するとき(1-2 間をショート)、S.DMARQ0 入力として使用するとき(2-3 間をショート)します。

デフォルトでは 1-2 間をショートして USB クロック入力としています。

4.33. P13-5 機能選択ジャンパ(JP8)

P13-5 の機能選択。CAN0RXD として使用するとき(1-2 間をショート)、RXD1F として使用するとき(2-3 間をショート)します。

デフォルトでは 1-2 間をショートとして CAN0RXD となっています。

4.34. SDRAM バス幅切り替えジャンパ(JP9)

SDRAM を 16 ビットバスで使用するとき(1-2 間をショート)、32 ビットバスで使用するとき(2-3 間をショート)します。

デフォルトでは 1-2 間をショートして 16 ビットバス幅となっています。

4.35. セカンダリ SRAM バス幅切り替えジャンパ(JP10,JP11)

セカンダリ SRAM を 32 ビットバスで使用するとき(1-2 間をショート)、16 ビットバスで使用するとき(2-3 間をショート)します。JP10、JP11 共に同じ設定でなければなりません。

デフォルトでは 1-2 間をショートして 32 ビットバスとなっています。

4.36. PHONE/LINE 出力切り替えジャンパ(JP12,JP13)

RIGHT 側(JP12)又は LEFT 側(JP13)を PHONE 出力に設定時(1-2 間をショート)、LINE出力に設定時(2-3 間をショート)します。JP12、JP13 は同じ設定にしてください。

デフォルトでは 1-2 間をショートし、PHONE 出力となっています。

4.37. LAN8700iC バス切り離し選択ジャンパ(JP14)

基板上の LAN8700iCをバスから切り離したいときショートし、使用のときオープンとします。

デフォルトではオープンで基板上の LAN8700iC が有効となっています。

4.38. グランド接続切り替えジャンパ(JP15,JP16,JP17,JP18)

CAN コネクタの 5 番及び 6 番ピンをグランドに接続するかどうかを選択します。ショートするとグランドに接続できます。

JP15 は CN16-5、JP16 は CN16-6、JP17 は CN17-5、JP18 は CN17-6 に対応しています。

デフォルトでは JP15,JP17 がショート、JP16,JP18 がオープンとなっています。

4.39. DSR-DTR ループバック切り替えジャンパ(JP19,JP20)

UART コネクタ CN18 又は CN19 において DSR と DTR 信号をループバックしたいときショートします。

JP19 は CN18 用、JP20 は CN19 用です。

デフォルトでは共にショートされています。

4.40. フラッシュプログラマ DDO/DDI 接続方法選択ジャンパ(JP21)

フラッシュプログラマコネクタの DDO と DDI をつなぎ、双方向信号として使用するときショートします。

デフォルトではオープンで DDO、DDI 独立になっています。

4.41. リセット信号選択ジャンパ(JP22)

CPUリセット信号を選択できます。通常 1-2 間をショートして使用しますが、2-3 間ショートしますとフラッシュプログラマ経由からリセット信号が選択されます。

デフォルトでは 1-2 間がショートされています。

4.42. ジャンパ(JP23)

ショート時 FLMD0 がツールから制御可能となります。

デフォルトではショートされています。

4.43. TDO プルアップ選択ジャンパ(JP24)

オンボードデバッグ用コネクタの TDO 端子をプルアップするとき ショートします。

デフォルトではショートされプルアップされています。

5. ハードウェア・リファレンス

RTE-V850E2/MN4-EB のハードウェアの仕様について記します。

5.1. メモリ・I/O のマップ

ボードのメモリとI/Oの割り付けは、以下の通りです。

0xFFFF_FFFF 0xFFFF_5000	内蔵周辺I/O領域	44KByte
0xFFFF_4FFF 0xFF84_0000	予約域	8MByte
0xFF83_FFFF 0xFF40_0000	内蔵周辺I/O領域	4MByte
0xFF3F_FFFF 0xFEE0_0000	予約域	6MByte
0xFEDF_FFFF 0xFEDF_0000	RAM1領域	64KByte
0xFEDE_FFFF 0xFEC0_0000	予約域	2MByte
0xFEBF_FFFF 0xFEBF_0000	RAM2領域	64KByte
0xFEBE_FFFF 0xFA00_0000	予約域	76MByte
0xF9FF_FFFF 0xF993_3400	予約域	7MByte
0xF993_33FF 0xF993_3000	内蔵周辺I/O領域	1KByte
0xF993_2FFF 0xF993_2400	予約域	3KByte
0xF993_23FF 0xF993_0000	内蔵周辺I/O領域	9KByte
0xF992_FFFF 0xF990_1400	予約域	187KByte
0xF990_13FF 0xF990_0000	内蔵周辺I/O領域	5KByte
0xF98F_FFFF 0xF981_0000	予約域	960KByte
0xF980_FFFF 0xF980_0000	EX-RAM領域	64KByte
0xF97F_FFFF 0xF960_0000	セカンダリCS3領域 未使用	2MByte
0xF95F_FFFF 0xF940_0000	セカンダリCS2領域 LCDC内ポート	2MByte
0xF93F_FFFF 0xF900_0000	セカンダリCS1領域 PLD内ポート	4MByte
0xF8FF_FFFF 0xF800_0000	セカンダリCS0領域 外部SRAM ③	16MByte (4MByte)
0xF7FF_FFFF 0xF000_0000	セカンダリSDRAM CS領域 外部SDRAM ②	128MByte (64MByte)
0x0FFF_FFFF 0x0C00_0000	予約域	64MByte
0x0BFF_FFFF 0x0800_0000	プライマリCS3領域 外部SRAM ①	64MByte (4MByte)
0x07FF_FFFF 0x0400_0000	プライマリCS2領域 外部SRAM ①	64MByte (4MByte)
0x03FF_FFFF 0x0200_0000	プライマリCS1領域 外部SRAM ①	32MByte (4MByte)
0x01FF_FFFF 0x0020_0000	予約域	30MByte
0x001F_FFFF 0x0000_0000	内蔵フラッシュメモリ領域	2MByte

メモリ・I/O マップ

()内の値は実際に使用される容量で、残りはイメージとなります。

- ① 外部SRAMは、16ビットバス幅を選択した場合、2Mバイトとなり、32ビットバス幅を選択した場合は4Mバイトとなります。又、外部SRAMはプライマリCS1からCS3までの領域のいずれか1つにのみ割り当てることができます。
- ② 外部SDRAMは、16ビットバス幅を選択した場合、32Mバイトとなり、32ビットバス幅を選択した場合は64Mバイトとなります。
- ③ 外部SRAMは、16ビットバス幅を選択した場合、2Mバイトとなり、32ビットバス幅を選択した場合は4Mバイトとなります。

プライマリ CS1 領域 (SRAM) :0x0200_0000-0x03FF_FFFF (32Mbyte)

プライマリ CS2 領域 (SRAM) :0x0400_0000-0x07FF_FFFF (64Mbyte)

プライマリ CS3 領域 (SRAM) :0x0800_0000-0x0BFF_FFFF (64Mbyte)

上記プライマリCS1からCS3のいずれかの領域にSRAMを割り当てることができます。実際のSRAMの容量はバス幅の選択により異なり、16ビットバス幅を選択したときは2Mバイトとなり、32ビットバス幅を選択したときは4Mバイトとなります。実装容量以上の空間には、実メモリ空間のイメージが発生します。

セカンダリ SDRAMCS 領域 (SDRAM) :0xF000_0000-0xF7FF_FFFF (128Mbyte)

SDRAMが割り当てられています。実際のSDRAMの容量はバス幅の選択により異なり、16ビットバス幅を選択したときは32Mバイトとなり、32ビットバス幅を選択したときは64Mバイトとなります。実装容量以上の空間には、実メモリ空間のイメージが発生します。

セカンダリ CS0 領域 (SRAM) :0xF800_0000-0xF8FF_FFFF (16Mbyte)

SRAMが割り当てられています。実際のSRAMの容量はバス幅の選択により異なり、16ビットバス幅を選択したときは32Mバイトとなり、32ビットバス幅を選択したときは4Mバイトとなります。実装容量以上の空間には、実メモリ空間のイメージが発生します。

セカンダリ CS1 領域 (PLD) :0xF900_0000-0xF93F_FFFF (4Mbyte)

この領域はPLDのI/Oポートとして割り当てられています。実際に使用されている空間は、0xF900_0000から0xF900_001Fまでで、これを超える空間には実I/O空間のイメージが発生します。

セカンダリ CS2 領域 (LCDC) :0xF940_0000-0xF95F_FFFF (2Mbyte)

この領域はLCDCのI/Oポートとして割り当てられています。実際に使用されている空間は、0xF940_0000から0xF941_FFFFまでで、これを超える空間には実I/O空間のイメージが発生します。

セカンダリ CS3 領域 (使用不可)

SDRAMCSとして使用しているためこの領域は使用できません。

6. メモリ詳細

6.1. SRAM

16Mbit(1Mx16bit)SRAM 2個をプライマリCS領域とセカンダリCS領域の2カ所に配置しています。

このうちプライマリ領域のSRAMではベースアドレスを変更することができます。(下図参照)

<DIPSW(SW3[4:1])の設定 vs 使用アドレス空間>

SW3[4]	SW3[3]	SW3[2]	SW3[1]	16bit バス時	32bit バス時
x	OFF	OFF	ON	0x0200_0000 0x021F_FFFF	0x0200_0000 0x023F_FFFF
x	OFF	ON	OFF	0x0400_0000 0x041F_FFFF	0x0400_0000 0x043F_FFFF
x	ON	OFF	OFF	0x0800_0000 0x081F_FFFF	0x0800_0000 0x083F_FFFF
x	OFF	OFF	OFF	DISABLE	

x : don't care

SW3[1]~SW3[2]において2つ以上の同時ONは禁止されています。

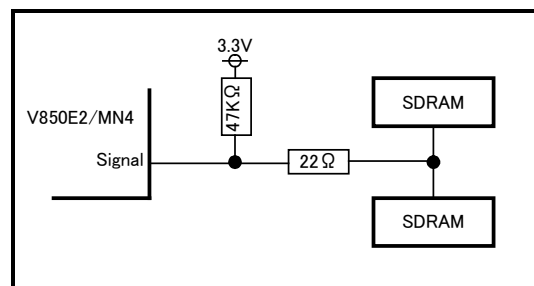
それぞれのSRAMは16Bitバスアクセス又は32Bitバスアクセスを選択することができ、16Bitバスアクセス時は2Mバイト、32Bitバスアクセス時は4Mバイトの容量を持ちます。実装されているSRAMはrenesas社製uPD4416016G5-A15-9JF又はサイプレス社製CY7C1061DV33-10ZSXIです。

6.2. SDRAM

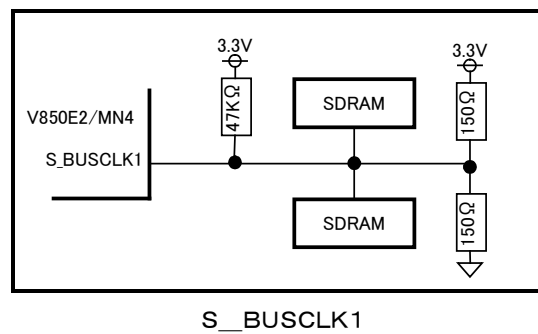
512Mbit(4Mx16bitx4bank) SDRAMを3個実装しています。但し16Bitバス設定時は1個のみが有効となり32Bitバス設定時は2個のみが有効となります。従って使用可能容量は16Bitバス設定時は32Mバイトとなり32Bitバス設定時は64Mバイトとなります。実装されているSDRAMは、Micron社製MT48LC16M16A2P-7E:ITです。

	16bit バス時	32bit バス時
SDRAM 空間	0xF000_0000 0xF1FF_FFFF	0xF000_0000 0xF3FF_FFFF

配線トポロジを信号グループ別に下図に示します。



アドレス/データ/クロック/コマンド系



7. IOマップ

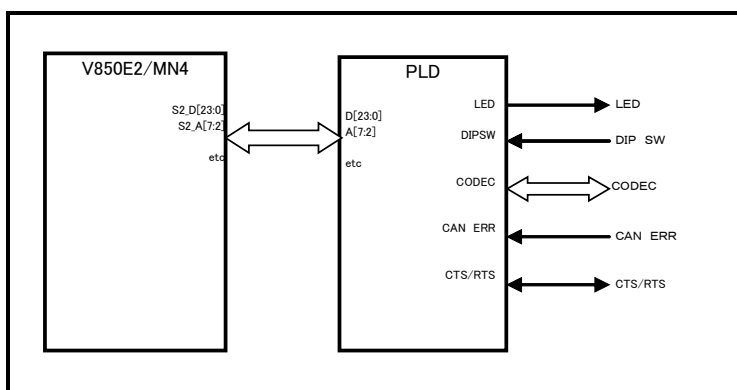
7.1. IO マップ一覧

バスに接続されている I/O は以下の通りです。

アドレス	デバイス
0xF900_0000-0xF900_001F	PLD レジスタ
0xF940_0000-0xF940_00B3	LCD コントローラ コントロールレジスタ
0xF942_0000-0xF943_FFFF	LCD コントローラ 表示メモリ

7.2. PLD (0xF900_0000-0xF900_001F)

V850E2/MN4 のセカンダリバスに接続され、オーディオ用 CODEC 制御、CAN/UART 補助信号、汎用 LED 汎用 DIPSW、SD カード補助信号のインターフェースとして機能します。



PLD 内のポートはセカンダリバス CS1 領域に割り付けられています。データは D0-D23 までが有効となっています。アクセス時は必ず 32 ビットでアクセスしてください。

以下に PLD 内部レジスタの詳細機能を示します。

7.2.1. REG0 PLAY_D (0xF900_0000)

Bit	Reset 時	名前	R/W	機能
23		DI(23)	WO	Lch, Rch 再生データ
22		DI(22)	WO	
21		DI(21)	WO	DMA 使用 1回の DMAREQ0(low アクティブ)で、Lchまたは Rchの再生データを1つ書き込みます。
20		DI(20)	WO	
19		DI(19)	WO	
18		DI(18)	WO	DMA 未使用 PLAY_RUN = 1 後の PLAY_READY = 1 で、Lch または Rchの再生データを1つ書き込みます。
17		DI(17)	WO	
16		DI(16)	WO	
15		DI(15)	WO	モノラル再生 再生するチャンネルの再生データを書き込み、再生しないチャンネルには000000Hを書き込みます。
14		DI(14)	WO	
13		DI(13)	WO	
12		DI(12)	WO	再生データは、最初の DMAREQ0 または PLAY_READY での書き込みから Lch, Rch, Lch, Rch...へ再生されます。
11		DI(11)	WO	
10		DI(10)	WO	
9		DI(9)	WO	
8		DI(8)	WO	
7		DI(7)	WO	
6		DI(6)	WO	

5		DI(5)	WO	緩衝用に 6 段の FIFO が内蔵されています。
4		DI(4)	WO	
3		DI(3)	WO	
2		DI(2)	WO	
1		DI(1)	WO	
0		DI(0)	WO	

7.2.2. REG1 PLAY_C (0xF900_0004)

Bit	Reset 時	名前	R/W	機能
23				未使用
22				
21				
20				
19				
18				
17				
16				
15				
14				
13				
12				
11				
10				
9				
8				
7				
6				
5	0	PLAY_UDF	RO	1:アンダーフローが発生しました。 Lch、Rchの再生データの書き込みが間に合わなかったときに1となります。 再生開始時に自動的に0になります。
4	0	DI_INT	RO	未使用
3	0	PLAY	W/R	1:再生を開始します。 0:再生を停止します。
2	0	PLAY_DMAENB	W/R	1:DMAREQ0を使用します。 0:DMAREQ0を使用しません。
1	0	PLAY_RUN	RO	1:再生中を示します。
0	0	PLAY_READY	RO	1:再生データの書き込みができます。 0:再生データの書き込みができません。

7.2.3. REG2 REC_D (0xF900_0008)

Bit	Reset 時	名前	R/W	機能
23		DO(23)	RO	Lch、Rch 録音データ
22		DO(22)	RO	
21		DO(21)	RO	DMA 使用 DMAREQ1(Low アクティブ)で、Lch または Rch の録音データを読み出します。
20		DO(20)	RO	
19		DO(19)	RO	DMA 未使用 REC_RUN = 1 後の REC_READY = 1 で、 Lch または Rchの録音データを読み出します。
18		DO(18)	RO	
17		DO(17)	RO	MIC 録音 MIC 録音は、Lch のみ有効となり、Rch は、不定デ ータとなります。
16		DO(16)	RO	
15		DO(15)	RO	録音データは、最初の DMAREQ1 または REC_READY から Lch、Rch、Lch、Rch... となりま す。
14		DO(14)	RO	
13		DO(13)	RO	緩衝用に 6 段の FIFO が内蔵されています。
12		DO(12)	RO	
11		DO(11)	RO	
10		DO(10)	RO	
9		DO(9)	RO	
8		DO(8)	RO	
7		DO(7)	RO	
6		DO(6)	RO	
5		DO(5)	RO	
4		DO(4)	RO	
3		DO(3)	RO	
2		DO(2)	RO	

1		DO(1)	RO	
0		DO(0)	RO	

7.2.4. REG3 REC_C (0xF900_000C)

Bit	Reset 時	名前	R/W	機能
23				
22				
21				
20				
19				
18				
17				
16				
15			RO	未使用
14				
13				
12				
11				
10				
9				
8				
7				
6				
5	0	REC_OVF	RO	1:オーバーフローが発生しました。 Lch、Rchの録音データの読出しが間に合わなかったときに1となります。 録音開始時に自動的に0となります。
4		DO_INT	RO	未使用
3	0	REC	W/R	1:録音を開始します。 0:録音を停止します。
2	0	REC_DMAENB	W/R	1:DMAREQ1を使用します。 0:DMAREQ1を使用しません。
1	0	REC_RUN	RO	1:録音中を示します。
0	0	REC_READY	RO	1:録音データがあります。 0:録音データがありません。

7.2.5. REG4 (0xF900_0010)

未使用

7.2.6. REG5 RSV (0xF900_0014)

Bit	Reset 時	名前	R/W	機能
23				
22				
21				
20				
19				
18				
17				
16				
15				
14				
13				
12				
11				
10				
9				
8				
7				
6				
5				
4			RO	未使用

3				
2				
1	0	CODEC.nRESET	W/R	0: CODEC をハードウェアリセット状態にします。 1: CODEC を動作状態にします。
0	0	AD0	W/R	本ビットは 0 固定で使用してください。

7.2.7. REG6 MISC (0xF900_0018)

Bit	Reset 時	名前	R/W	機能
23				未使用
22				
21				
20				
19				
18				
17				
16				
15				
14				
13				
12				
11		SD_nWP	RO	
10		SD_nCD	RO	
9		CTS3F	RO	
8		CTS1F	RO	入力ポート(スイッチ) CPLD 内蔵プルアップ抵抗設定あり Weak Pull-Up Resistor On
7		SW(7)	RO	
6		SW(6)	RO	
5		SW(5)	RO	
4		SW(4)	RO	
3		SW(3)	RO	
2		SW(2)	RO	
1		SW(1)	RO	
0		SW(0)	RO	

7.2.8. REG7 (0xF900_001C)

Bit	Reset 時	名前	R/W	機能
23		TP1	W/R	予備端子
22			RO	未使用
21				未使用
20				
19				
18				
17				
16				
15				
14				
13	0	CAN1EN	W/R	出力ポート
12	0	CAN0EN	W/R	
11	1	nCAN1STB	W/R	
10	1	nCAN0STB	W/R	
9	0	RTS3F	W/R	出力ポート(LED 表示) ロジック 0 で点灯します。
8	0	RTS1F	W/R	
7	0	LED(7)	W/R	
6	0	LED(6)	W/R	
5	0	LED(5)	W/R	
4	0	LED(4)	W/R	
3	0	LED(3)	W/R	
2	0	LED(2)	W/R	
1	0	LED(1)	W/R	
0	0	LED(0)	W/R	

7.3. SW4 読み出しポート (0xF900_0018)

汎用で使用可能な 8bit のスイッチがあり、ソフトウェアでリードすることができます。

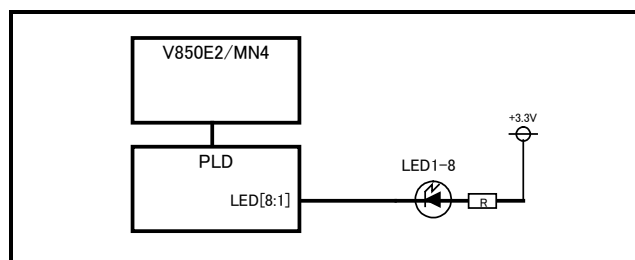
PLD 内レジスタ【 7.2.7 】を参照してください。又 SW について【 4.6 】を参照してください。

7.4. LED 表示出力ポート (0xF900_001C)

ソフトウェアで制御できる LED を合計で8個実装しており、PLD のポートにより制御されます。

該当するビット位置に0をライトすると対応する LED が点灯します。

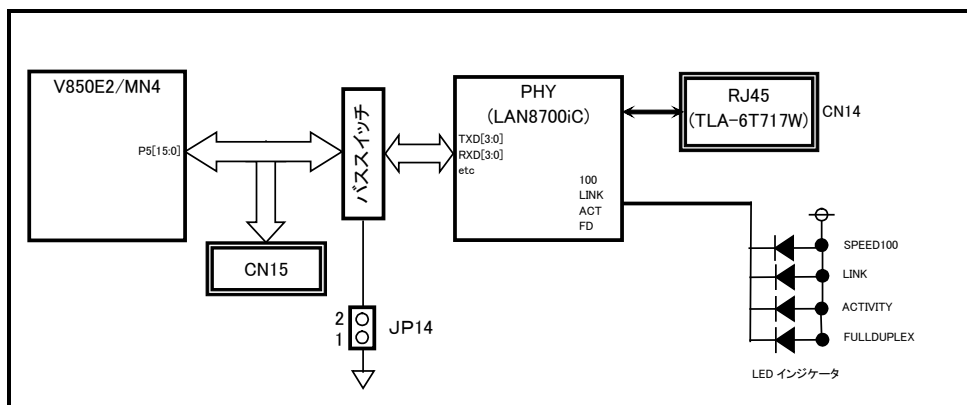
ビット位置は PLD 内レジスタ【 7.2.8 】を参照してください。



7.5. LAN-PHY

Ethernet I/F です。V850E2/MN4 とは PHY(LAN8700iC)を介して I/F します。RJ45 はトランスフォーマーが内蔵されたタイプです。

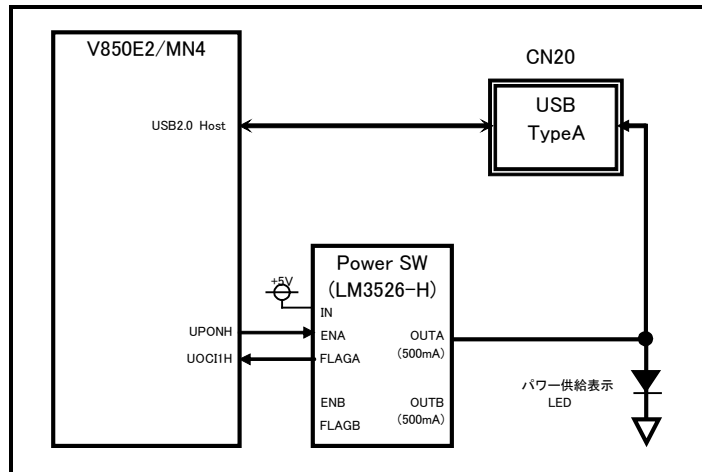
また、V850E2/MN4 と PHY(LAN8700iC)はバススイッチ IC を経由して接続されているため、JP14 をショートすることにより基板上の PHY(LAN8700iC)が切り離され、CN15 へ独自の PHY/RJ45 搭載ボードを接続することができます。



7.6. USB2.0-HOST

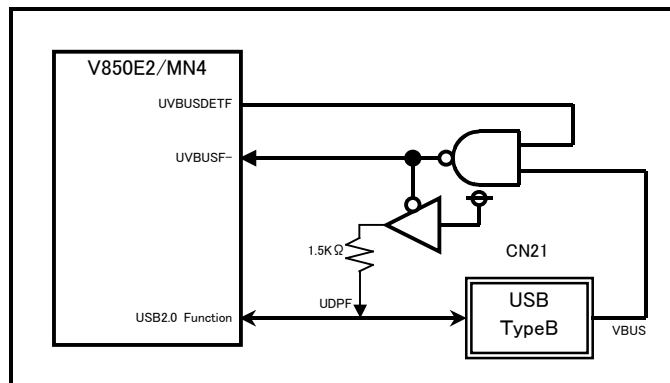
V850E2/MN4 内蔵の USB ホスト・インターフェースを使用します。

USBバスパワーの制御が可能となっており、パワー供給中 LEDが点灯します。



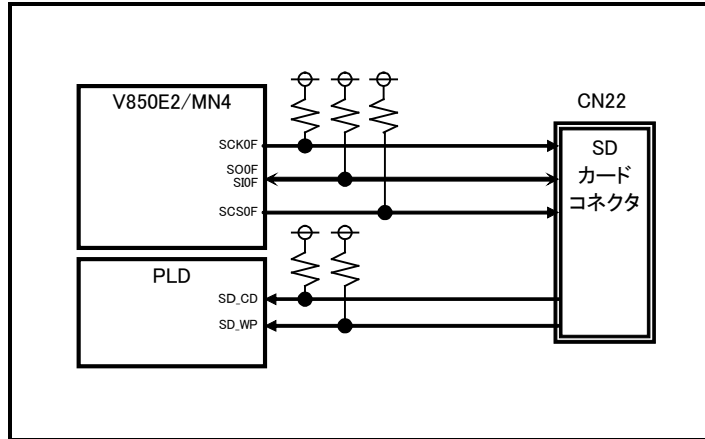
7.7. USB2.0-FUNCTION

V850E2/MN4 内蔵の USB ファンクション・インターフェースを使用します。



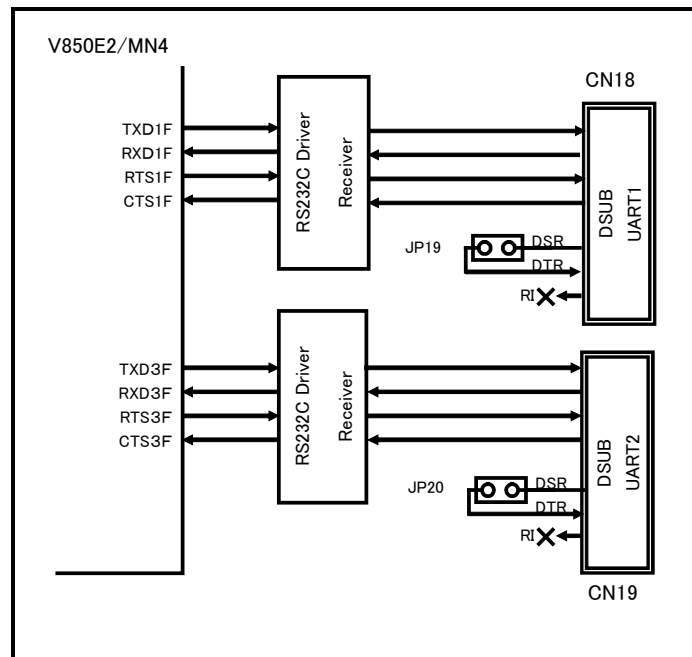
7.8. SD インターフェース

V850E2/MN4 内蔵の CSI インターフェースを使用します。



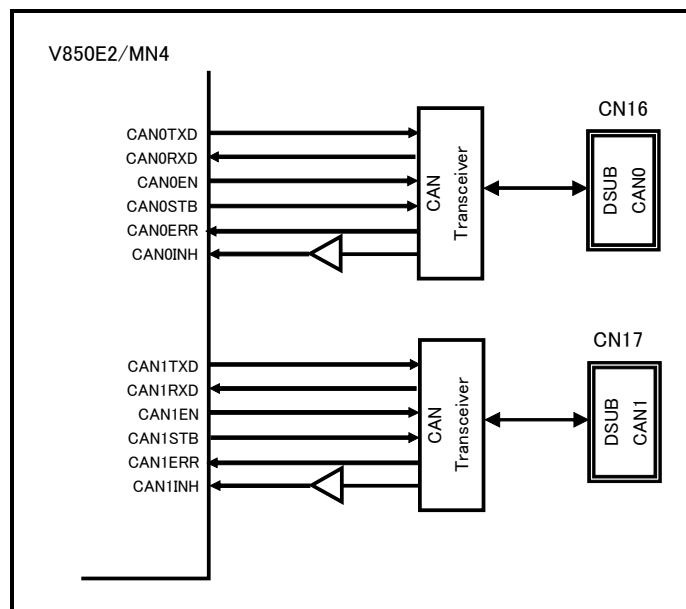
7.9. UART

V850E2/MN4 内蔵 UART インターフェースを使用します。



7.10. CAN

V850E2/MN4 内蔵 CAN インターフェースを使用します。



7.11. LCDC

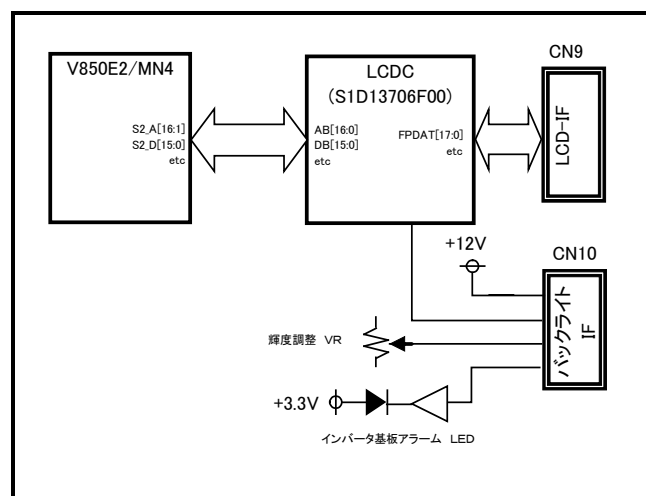
LCDC としてエプソン社製 S1D13706F00 をセカンダリバスへ直結しています。バックライト用インバータ基板への電源供給と輝度調整用のI/Fも備えています。

以下にレジスタ及び内部メモリのアドレスを示します。

アドレス	R/W	レジスタ名
0xF940_0000	R	REG[00h] Revision Code Register
0xF940_0001	R	REG[01h] Display Buffer Size Register
0xF940_0002	R	REG[02h] Configuration Readback Register
0xF940_0004	R/W	REG[04h] Memory Clock Configuration Register
0xF940_0005	R/W	REG[05h] Pixel Clock Configuration Register
0xF940_0008	W	REG[08h] Look-Up Table Blue Write Data Register
0xF940_0009	W	REG[09h] Look-Up Table Green Write Data Register
0xF940_000A	W	REG[0Ah] Look-Up Table Red Write Data Register
0xF940_000B	W	REG[0Bh] Look-Up Table Write Address Register
0xF940_000C	R	REG[0Ch] Look-Up Table Blue Read Data Register
0xF940_000D	R	REG[0Dh] Look-Up Table Green Read Data Register
0xF940_000E	R	REG[0Eh] Look-Up Table Red Read Data Register

0xF940_000F	W	REG[0Fh] Look-Up Table Read Address Register
0xF940_0010	R/W	REG[10h] Panel Type Register
0xF940_0011	R/W	REG[11h] MOD Rate Register
0xF940_0012	R/W	REG[12h] Horizontal Total Register
0xF940_0014	R/W	REG[14h] Horizontal Display Period Register
0xF940_0016	R/W	REG[16h] Horizontal Display Period Start Position Register 0
0xF940_0017	R/W	REG[17h] Horizontal Display Period Start Position Register 1
0xF940_0018	R/W	REG[18h] Vertical Total Register 0
0xF940_0019	R/W	REG[19h] Vertical Total Register 1
0xF940_001C	R/W	REG[1Ch] Vertical Display Period Register 0
0xF940_001D	R/W	REG[1Dh] Vertical Display Period Register 1
0xF940_001E	R/W	REG[1Eh] Vertical Display Period Start Position Register 0
0xF940_001F	R/W	REG[1Fh] Vertical Display Period Start Position Register 1
0xF940_0020	R/W	REG[20h] FPLINE Pulse Width Register
0xF940_0022	R/W	REG[22h] FPLINE Pulse Start Position Register 0
0xF940_0023	R/W	REG[23h] FPLINE Pulse Start Position Register 1
0xF940_0024	R/W	REG[24h] FPFRAME Pulse Width Register
0xF940_0026	R/W	REG[26h] FPFRAME Pulse Start Position Register 0
0xF940_0027	R/W	REG[27h] FPFRAME Pulse Start Position Register 1
0xF940_0028	R/W	REG[28h] D-TFD GCP Index Register
0xF940_002C	R/W	REG[2Ch] D-TFD GCP Data Register
0xF940_0070	R/W	REG[70h] Display Mode Register
0xF940_0071	R/W	REG[71h] Special Effects Register
0xF940_0074	R/W	REG[74h] Main Window Display Start Address Register 0
0xF940_0075	R/W	REG[75h] Main Window Display Start Address Register 1
0xF940_0076	R/W	REG[76h] Main Window Display Start Address Register 2
0xF940_0078	R/W	REG[78h] Main Window Line Address Offset Register 0
0xF940_0079	R/W	REG[79h] Main Window Line Address Offset Register 1
0xF940_007C	R/W	REG[7Ch] PIP+ Window Display Start Address Register 0
0xF940_007D	R/W	REG[7Dh] PIP+ Window Display Start Address Register 1
0xF940_007E	R/W	REG[7Eh] PIP+ Window Display Start Address Register 2
0xF940_0080	R/W	REG[80h] PIP+ Window Line Address Offset Register 0
0xF940_0081	R/W	REG[81h] PIP+ Window Line Address Offset Register 1
0xF940_0084	R/W	REG[84h] PIP+ Window X Start Position Register 0
0xF940_0085	R/W	REG[85h] PIP+ Window X Start Position Register 1

0xF940_0088	R/W	REG[88h] PIP+ Window Y Start Position Register 0
0xF940_0089	R/W	REG[89h] PIP+ Window Y Start Position Register 1
0xF940_008C	R/W	REG[8Ch] PIP+ Window X End Position Register 0
0xF940_008D	R/W	REG[8Dh] PIP+ Window X End Position Register 1
0xF940_0090	R/W	REG[90h] PIP+ Window Y End Position Register 0
0xF940_0091	R/W	REG[91h] PIP+ Window Y End Position Register 1
0xF940_00A0	R/W	REG[A0h] Power Save Configuration Register
0xF940_00A1	R/W	REG[A1h] Reserved
0xF940_00A2	R/W	REG[A2h] Reserved
0xF940_00A3	R/W	REG[A3h] Reserved
0xF940_00A4	R/W	REG[A4h] Scratch Pad Register 0
0xF940_00A5	R/W	REG[A5h] Scratch Pad Register 1
0xF940_00A8	R/W	REG[A8h] General Purpose IO Pins Configuration Register 0
0xF940_00A9	R/W	REG[A9h] General Purpose IO Pins Configuration Register 1
0xF940_00AC	R/W	REG[ACh] General Purpose IO Pins Status/Control Register 0
0xF940_00AD	R/W	REG[ADh] General Purpose IO Pins Status/Control Register 1
0xF940_00B0	R/W	REG[B0h] PWM Clock / CV Pulse Control Register
0xF940_00B1	R/W	REG[B1h] PWM Clock / CV Pulse Configuration Register
0xF940_00B2	R/W	REG[B2h] CV Pulse Burst Length Register
0xF940_00B3	R/W	REG[B3h] PWMOUT Duty Cycle Register
0xF942_0000 0xF943_FFFF	R/W	80KByte ディスプレイバッファ



下記に LCDC の設定例を示します。なお、『LCDC_REG(x)』は LCDC の x レジスタへの設定を示します。

```

LCDC_REG(0xa8) = 0x07 ; // GPIO[2:0] を出力に設定
LCDC_REG(0xac) = 0x00 ; // GPIO[2:0] から Low を出力
// (GPIO[0]=DPSH, GPIO[1]=DPSV, GPIO[2]=Q/V)
LCDC_REG(0xa0) = 0x00 ; // パワーセーブ・モード解除
LCDC_REG(0xad) = 0x80 ; // GPIO に High を出力→バックライト点灯

LCDC_REG(0x04) = 0x10 ; // BCLK:MCLK = 1:2
LCDC_REG(0x05) = 0x43 ; // PCLK=CLK12/8=50MHz/8=6.25MHz
LCDC_REG(0x10) = 0x61 ; // カラーLCD パネル, 18bit, TFT パネル
LCDC_REG(0x12) = 49 ; // 全水平期間=(設定値+1)*8=400
LCDC_REG(0x14) = 39 ; // 水平表示期間=(設定値+1)*8=320
LCDC_REG(0x16) = 15 ; // 水平表示期間開始位置=設定値+5=20
LCDC_REG(0x17) = 0 ;
LCDC_REG(0x18) = 0x03 ; // 全垂直期間=設定値+1=260
LCDC_REG(0x19) = 0x01 ;
LCDC_REG(0x1c) = 239 ; // 垂直表示期間=設定値+1=240
LCDC_REG(0x1d) = 0 ;
LCDC_REG(0x1e) = 12 ; // 垂直表示期間開始位置=設定値=12
LCDC_REG(0x1f) = 0 ;
LCDC_REG(0x20) = 0x13 ; // 水平同期パルス極性 Low アクティブ、パルス幅=設定値+1=20
LCDC_REG(0x22) = 0x67 ; // 水平同期パルス開始位置=設定値+1=360
LCDC_REG(0x23) = 0x01 ;
LCDC_REG(0x24) = 0x03 ; // 垂直同期パルス極性 Low アクティブ、パルス幅=設定値+1=4
LCDC_REG(0x26) = 12 ; // 垂直同期パルス開始位置=設定値=12
LCDC_REG(0x70) = 0x03 ; // 8bpp モード
LCDC_REG(0x74) = 0x00 ; // メインウィンド表示開始アドレス=0x000
LCDC_REG(0x75) = 0x00 ;
LCDC_REG(0x76) = 0x00 ;
LCDC_REG(0x78) = 80 ; // メインウィンドラインアドレスオフセット=80
LCDC_REG(0x79) = 0 ;

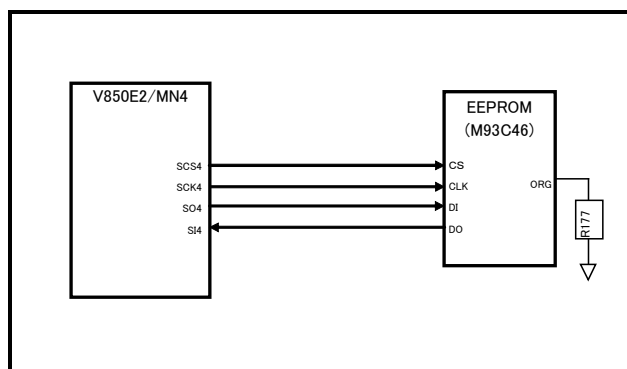
// 以降 LUT の設定を行った後、画面への描画

```

7.12. EEPROM

V850E2/MN4 の CSI にはシリアルタイプの EEPROM が接続しています。

シリアル EEPROM の容量は 1Kbit で R177 の有無により 8bit×128 ワード(R177 に 0Ω 取り付け)及び 16bit×64 ワード(R177 未実装)の構成が選択可能です。デフォルトでは 16bit×64 ワードとなっています。



7.13. CODEC

オーディオ用の CODEC が CPU から I2C で制御でき、PLD のポートで I2S での音声データの入出力を行います。

CODEC を使用する前に、PLD のポートにある CODEC_nRESET を 1 (動作状態)にした後、10msec 以内に CODEC にあるレジスタの PDN ビットを 1 に設定してソフトウェアモードにする必要があります。

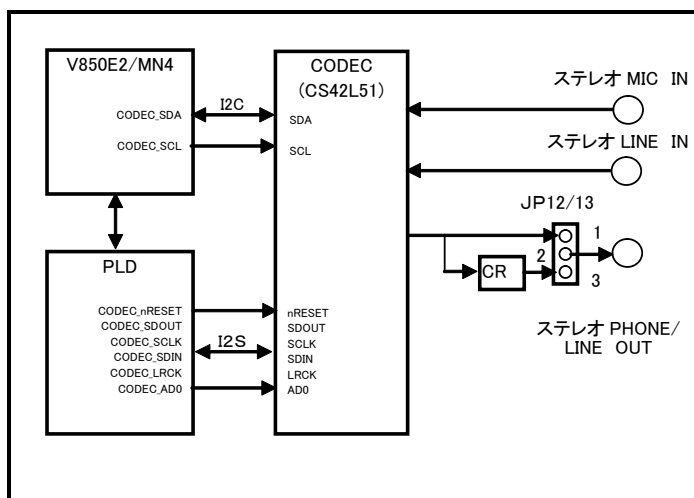
AUDIO DATA I2S, CS42L51 master mode

MCLK 12.288MHz

選択可能サンプリング周波数(Fs)

MCLKDIV2	SPEED[1:0]	Fs
0	00	96KHz
1	01	48KHz
1	10	24KHz
1	11	12KHz

上記以外の設定はしないでください。



I2S の音声データの転送に DMA を使用する場合、DMARQ1 を再生用、DMARQ2 を録音用に割り当ててください。DMARQ1/DMARQ2 共に負論理です。また、I2C は SCL2/SDA2 を使用します。

DMA を使用する場合の制御手順例を以下に示します。

1. I2C の端子設定と I2C コントローラの初期化
2. DMA の端子設定と DMA コントローラの初期化
3. CODEC の初期化
4. DMA の起動
5. 録音／再生の開始

下記に設定例を示します。リスト中の xxx_REG は CPU の SFR レジスタへの設定／参照を示します。また、I2CSend(x ,y)は『CODEC のレジスタ番号 x のレジスタに y を設定する』を示します。

```
// DMA の初期化例 (DMA 転送終了割り込みの設定は行っていません)
// Ch0 は Play 用
SCHCTRL0_REG = 0x00000020 ; // 続けて DMA トランザクションを起動しない、
// SCHSTATn.ENDn をクリアする
SCHCFG0_REG = 0x00222268 ; // レジスタ・モード、続けて DMA トランザクションを起動しない、
// Next0 レジスタを選択、通常モード (notWriteOnly)、
// シングル転送モード、ディスティネーション固定、
// ソース・インクリメント、転送先サイズ 32Bit、転送元サイズ 32Bit、
// DMARQ は Low レベル検出、DMARQ0 を使用
SNODAO_REG = 0xf9000000 ;
SNOSAO_REG = DMA_PLAY_BUF_BASE ;
SNOTBO_REG = DMA_PLAY_BUF_SIZE ;

// Ch1 は Recode 用
SCHCTRL1_REG = 0x00000020 ; // 続けて DMA トランザクションを起動しない、
// SCHSTATn.ENDn をクリアする
SCHCFG1_REG = 0x00122261 ; // レジスタ・モード、続けて DMA トランザクションを起動しない、
// Next0 レジスタを選択、通常モード (notWriteOnly)、
// シングル転送モード、ディスティネーション・インクリメント、
// ソース固定、転送先サイズ 32Bit、転送元サイズ 32Bit、
// DMARQ は Low レベル検出、DMARQ1 を使用
SNOSA1_REG = 0xf9000008 ;
SNODA1_REG = DMA_REC_BUF_BASE ;
SNOTB1_REG = DMA_REC_BUF_SIZE ;
```

```
// CODEC の初期化例
#define PLD_RSV_REG    (*(volatile UINT32 *) (0xf9000014))

PLD_RSV_REG = PLD_RSV_REG & 0xfffffff0 | 0x0 ; // Codec をリセット状態にして、ADO 端子を 0 にする
for(tmp_i=0 ;tmp_i<1000 ;tmp_i++){           // ちょっと待つ
    PLD_RSV_REG ;
}
PLD_RSV_REG = PLD_RSV_REG & 0xfffffff0 | 0x2 ; // Codec のリセットを解除して、ADO 端子を 0 にする
for(tmp_i=0 ;tmp_i<1000 ;tmp_i++){           // ちょっと待つ

12CSend(0x02 ,0x01) ; // 0x02 番地 (Power Control 1)
// 0 : Bit7 Reserved
// 0 : Bit6 PDN_DACB
// 0 : Bit5 PDN_DACA
// 0 : Bit4 PDN_PGAB
// 0 : Bit3 PDN_PGAA
// 0 : Bit2 PDN_ADCB
// 0 : Bit1 PDN_ADCA
// 1 : Bit0 PDN

12CSend(0x03 ,0x0e) ; // 0x03 番地 (MIC Power Control & Speed Control)
// 0 : Bit7 AUTO
// 0 : Bit6 SPEED1           96KHz
// 0 : Bit5 SPEED0
// 0 : Bit4 3-ST_SP
// 1 : Bit3 PDN_MICB
// 1 : Bit2 PDN_MICA
// 1 : Bit1 PDN_MICBIAS
// 0 : Bit0 MCLKDIV2

12CSend(0x04 ,0x4c) ; // 0x04 番地 (Interface Control)
// 0 : Bit7 SDOUT->SDIN
// 1 : Bit6 M/S           Master
// 0 : Bit5 DAC_DIF2     12S, up to 24-bit data
// 0 : Bit4 DAC_DIF1
// 1 : Bit3 DAC_DIF0
// 1 : Bit2 ADC_12S/LJ   12S
// 0 : Bit1 DIGMIX
// 0 : Bit0 MICMIX

12CSend(0x05 ,0x01) ; // 0x05 番地 (MIC Control)
// 0 : Bit7 ADC_SNGVOL
// 0 : Bit6 ADCB_DBOOST
// 0 : Bit5 ADCA_DBOOST
// 0 : Bit4 MICBIAS_SEL   AIN3B/MICIN2
// 0 : Bit3 MICBIAS_LVL1  0.8xVA
// 0 : Bit2 MICBIAS_LVL0
// 0 : Bit1 MICB_BOOST
// 1 : Bit0 MICA_BOOST
```

```
// CODEC の設定例 (Line In/Out 使用)

I2CSend(0x02 , 0x00) : // 0x02 番地 (Power Control 1)
                      // 0 : Bit7 Reserved
                      // 0 : Bit6 PDN_DACB
                      // 0 : Bit5 PDN_DACA
                      // 0 : Bit4 PDN_PGAB
                      // 0 : Bit3 PDN_PGAA
                      // 0 : Bit2 PDN_ADCB
                      // 0 : Bit1 PDN_ADCA
                      // 0 : Bit0 PDN

I2CSend(0x07 , 0x00) : // 0x07 番地 (ADCx Input Select, Invert & Mute)
                      // 0 : Bit7 AINB_MUX1
                      // 0 : Bit6 AINB_MUX0
                      // 0 : Bit5 AINA_MUX1
                      // 0 : Bit4 AINA_MUX0
                      // 0 : Bit3 INV_ADCB
                      // 0 : Bit2 INV_ADCA
                      // 0 : Bit1 ADCB_MUTE
                      // 0 : Bit0 ADCA_MUTE
```

```
#define PLD_PLAYC_REG      (*(volatile UINT32 *) (0xf9000004))
#define PLD_PLAYC_PLAY_DMAENB  (1<<2)
#define PLD_PLAYC_PLAY  (1<<3)
#define PLD_RECC_REG      (*(volatile UINT32 *) (0xf900000c))
#define PLD_RECC_REC_DMAENB  (1<<2)
#define PLD_RECC_REC      (1<<3)

// Play 開始
SCHCTRL0_REG = SCHCTRL0_REG | 0x00000001 ; // DMA 動作許可
PLD_PLAYC_REG = PLD_PLAYC_PLAY_DMAENB | PLD_PLAYC_PLAY ; // 再生開始

// Recode 開始
SCHCTRL1_REG = SCHCTRL1_REG | 0x00000001 ; // DMA 動作許可
PLD_RECC_REG = PLD_RECC_REC_DMAENB | PLD_RECC_REC ; // 録音開始
```

8. CPU端子接続

V850E2/MN4 CPU の各端子の使用状況を説明します。

8.1. 端子接続一覧

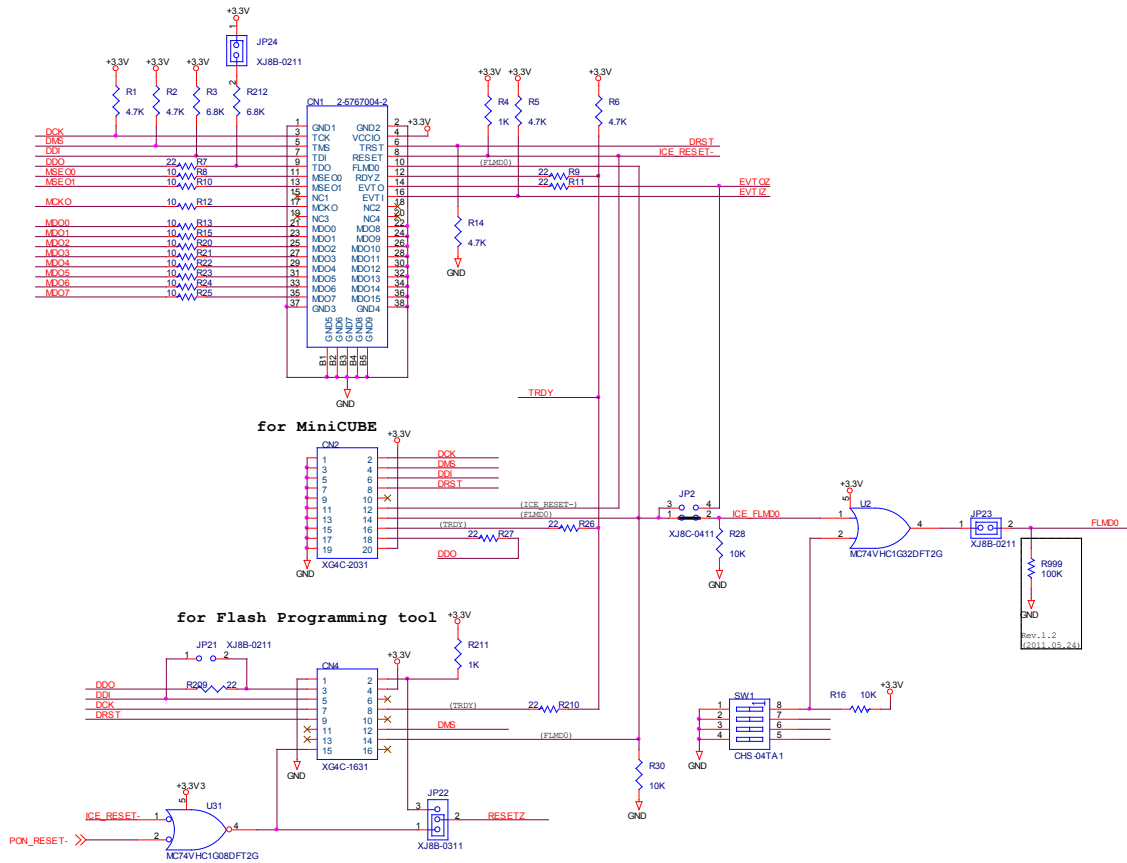
端子名	使用状況	参照章
P0_0 - P0_15 P1_0 - P1_15	P_D0 - P_D31 プライマリーデータバスとして又は EX_P0_0-EX_P0_15 及び EX_P1_0-EX_P1_15 として使用	4.15
P2_0	NMI として使用	4.9
P2_1	P_LLBE-として又は拡張 EX_P2_1 として使用	4.15
P2_2	P_LUBE-として又は拡張 EX_P2_2 として使用	
P2_3	P_ULBE-として又は拡張 EX_P2_3 として使用	
P2_4	P_UUBE-として又は拡張 EX_P2_4 として使用	
P2_5	P_RD-として又は拡張 EX_P2_5 として使用	
P2_6	TP1 又は拡張 EX_P2_6 として使用	
P2_7	P_WR-又は拡張 EX_P2_7 として使用	
P3_0 P3_1-P3_15	拡張 EX_P3_0 として使用 P_A1-P_A15 として又は拡張 EX_P3_1-EX_P3_15 として使用	4.15
P4_0-P4_5 P4_6 P4_7 P4_8 P4_9 P4_10 P4_11 P4_12 P4_13	P_A16-P_A21 として又は拡張 EX_P4_0-EX_P4_5 として使用 RXD3F として又は拡張 EX_P4_6 として使用 TXD3F として又は拡張 EX_P4_7 として使用 P_CS1-として又は拡張 EX_P4_8 として使用 P_CS2-として又は UVBUSF-としてあるいは 拡張 EX_P4_9 として使用 P_CS3-として又は UVBUSDETf としてあるいは 拡張 EX_P4_10 として使用 SCK0F として又は拡張 EX_P4_11 として使用 SO0F として又は拡張 EX_P4_12 として使用 Si0F として又は拡張 EX_P4_13 として使用	4.15 7.8
P5_0 P5_1 P5_2 P5_3 P5_4 P5_5 P5_6 P5_7	LAN8700iC CRS/PHYAD4 と接続 LAN8700iC COL/RMII/CRS_DV と接続 LAN8700iC TXD3 と接続 LAN8700iC TXD2 と接続 LAN8700iC TXD1 と接続 LAN8700iC TXD0 と接続 LAN8700iC TX_EN と接続 LAN8700iC TX_CLK と接続	7.5

P5_8	LAN8700iC nINT/TX_ER/TXD4 と接続	
P5_9	LAN8700iC RX_ER/RXD4 と接続	
P5_10	LAN8700iC RX_CLK/REGOFF と接続	
P5_11	LAN8700iC RX_DV と接続	
P5_12	LAN8700iC RXD0/MODE0 と接続	
P5_13	LAN8700iC RXD1/MODE1 と接続	
P5_14	LAN8700iC RXD2/MODE2 と接続	
P5_15	LAN8700iC RXD3/nINTSEL と接続	
P6_0	LAN8700iC MDC と接続	
P6_1	LAN8700iC MDIO と接続	
P7_0-P7_15 P8_0-P8_15	S1_D0 - S1_D31、S2_D0 - S2_D31 セカンダリデータバスとして又は TP7_0-TP7_15 及び TP8_0-TP8_15 として使用	4.16
P9_0	S_SDCKE として使用	
P9_1	S_BUSCLK1/2 として使用	
P9_2	S_SDCAS-として使用	
P9_3	S_SDRAS-として使用	
P9_4	S_LLDQM として使用	
P9_5	S_LUDQM として使用	
P9_6	S_ULDQM として使用	
P9_7	S_UUDQM として使用	
P9_8	SCS4 として使用	7.12
P9_9	SO4 として使用	
P9_10	SI4 として使用	
P9_11	SCK4 として使用	
P9_12	S_RD-として使用	
P9_13	S_WR-として使用	
P9_14	S_LLBE-として使用	
P9_15	S_LUBE-として使用	
P10_0	S_ULBE-として使用	
P10_1	S_UUBE-として使用	
P10_2	S_WE-として使用	
P10_3	---	
P10_4	S_CS0-として使用	6.1
P10_5	S_CS1-として使用	7.2
P10_6	S_CS2-として使用	7.11
P10_7	S_SDCS-として使用	6.2

P10.8	WAIT-として使用	
P10.9	PAD1 として使用	
P10.10	PAD2 として使用	
P10.11	SCS0F-として使用	
P11_0-P11_13	S1_A1 - S1_A14、S2_A1 - S2_A14 セカンダリアドレスバスとして使用	
P11_14-P11_15	S2_A15 - S2_A16 セカンダリアドレスバスとして使用	
P12_0-P12_4	S2_A17 - S2_A21 セカンダリアドレスバスとして使用	
P12.5	INTP5 として使用	
P12.6	HA23 として使用	
P12.7	HA24 として使用	
P12.8	HA25 又は CODEC_SDA として使用	
P12.9	CODEC_SCL として使用	7.13
P13_0	UCLK 又は S_DMARQ0 として使用	
P13_1	S_DMAAK0 として使用	
P13_2	UPONH 又は S_DMARQ1 として使用	
P13_3	UOCIH 又は SDMAAK1 として使用	
P13_4	CAN0TXD 及び TXD1F として使用	7.10
P13_5	CAN0RXD 又は RXD1F として使用(TP2)	
P13_6	CAN1TXD として使用	
P13_7	CAN1RXD として使用(TP3)	
P14_0	---	
P14_1	---	
P14_2	CAN0ERR-として使用	7.10
P14_3	CAN1ERR-として使用	
P14_4	CAN0INH-として使用	
P14_5	CAN1INH-として使用	

Appendix. A

ICE、及び、フラッシュ・プログラマ用のツール IF 部の回路図を以下に示します。



- Memo -

RTE-V850E2/MN4-EB ユーザーズ・マニュアル

Midas lab